

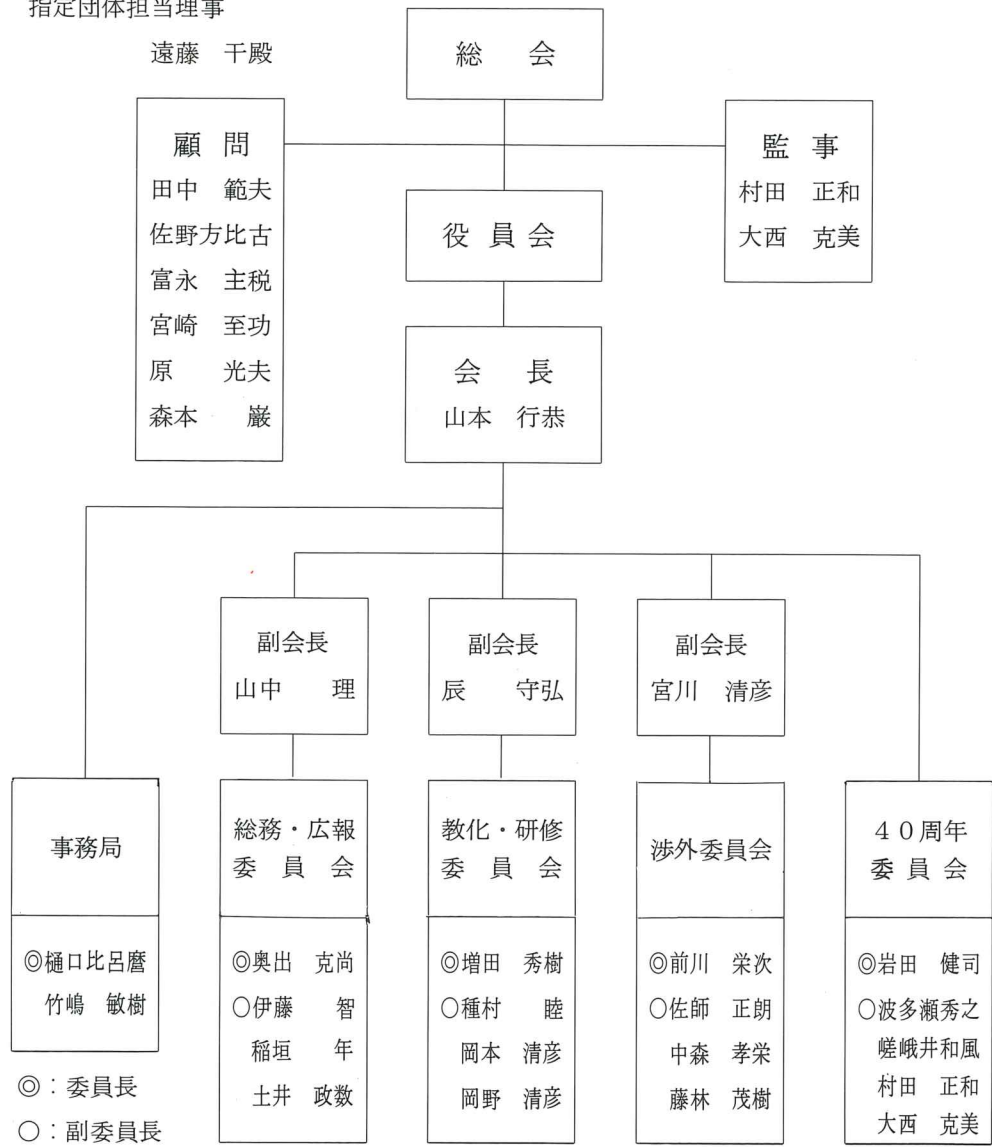
柳菟



三重県神道青年会報 第16号

三重県神社庁
指定団体担当事務

遠藤 干殿



三重県神道青年会役員組織図



→ 主な役員顔ぶれ(新年会にて)
← 第九回役員会(於 猿田彦神社)
共 平成二年一月二十九日



「君汲川流我拾薪」

会長 山本 行恭

哀感漂う余韻を残して改元された平成元年四月の定例総会におきまして、第十五代目の会長という要職を拝命致しました。

晴天の霹靂とは大変俗っぽい表現で恐縮ですが、過去二期の理事経験させていただいた後、社務の都合で長期米国滞在から帰国した直後に届けられたメッセージは正に私にとって晴天裡の霹靂にしかありませんでした。

時に国内外共に、変改の分岐点であり、深い悲しみの渦に打ちひしがれていた折も折、斯様な重責に預るのもおこがましく、且又、この任務を克服出来るか否かと考へ悩み抜きましたが、一人相撲を取る様なスタイルは止めようと、幸いに良き優秀な副会長三氏が後ろ楯となってくれました。渡米中の長いブランクを埋め尽くし得る程のアビリティは毛頭持ち合わせにない事に加え、募る不安にた

じろぎつつ三氏に委ねる事で任務を全うしようと、浅薄な甘えがあったのです。

「温故知新」。過去十四代に至る歴々たる会長以下執行部の指導によって培われた歴史と伝統を温めつつ、過去及び現在を学ぶには最適なポストに他ならず、国家的重儀と目されねばならぬ即位の礼大嘗祭及び一連の諸儀を始めとして、人皇第一代神武天皇御即位後紀元二六五〇年、また明治四十三年換発の教育勅語百年という大きな節目と共に、私共神道青年会の創立四十周年という大題目を眼前に控え、全会員は勿論の事、斯職に預る古老をも含め一丸となって重儀を遂行しなければなりません。順徳天皇の御言葉をお借りするならば、「先神事、後他事」を心に置き据えて実践すべく使命感を奮い起こして全力投球をする事になりました。

その意味から先ず、神宮を戴く県として第六十一回式年御遷宮にまつわる儀式に、青年神職として御奉仕の榮譽に預った十一月三日の「宇治橋渡始式」には、他職を兼務する多くの神職の自発的な参加奉仕により、恙無く奉仕の一翼を担わせていただき、奉仕をされた方々の感激は今なお心の奥底に深く斬新なまでに残っていることと思えます。又、年明けの二月には、紀元二六五〇年式典が御即位の札に関連する「御神火行進」として、水雨降りしきる中をももものもせず、青年としての気概を露させ御手伝いをいただきましたことは、取りも直さず、今この時を逃せば出来得ない事と全員が肝に銘じつつ、誠心誠意の任に当たって下さったと感じ入っております。宣命に、「中今」と言う言葉があります。流れの中に在って物事を成し得る機会が有ると雖も、この時に限定されてしまう素晴らしい要素を多分に含んでいるということを知り、正に時に在りて参加いただけたものと確信致します。国外に於きましては、現政情に対する反発から自由化をめざして阿鼻叫喚する国民の心中を

考えると、「中今」の実践をしていく民族の姿として捉えることが出来るのです。然し彼等の勇姿を今こそ我々がつぶさに踏み行うべき秋と考えております。今秋十一月に御齋行される新天皇の御即位を寿ぎ、大嘗の御祭に合わせ、全国民は疎か遙か海外の人々と共に国家の弥栄と皇室の御繁栄を願ひ、啓蒙運動と実践に務めて参りたいと願っております。一瀉千里の如く過ぎ去った一年を顧みると共に、今後も全会員が互いに夢を描きつつ一歩一歩と進めて行く事と各委員会に在っては、今一度この重大さを認識しつつ互いにフォローアップしながら肝胆相照らす青年としての時期を有意義に消化したいと思えます。表題のタイトルは、廣瀬淡窓が青年諸氏に示した一節であり、様々な苦勞は多くても決して休む事なく、友としてお互いに相親しむべきであり、一つの事業・目的を達成するに当たっては、川で水を汲む者と山で薪を拾い集める者との別れ、相互理解と助け合いをすれば、必ずや目的は成し遂げられるものです。あと一年頑張りましょう。

委員会の窓

総務広報委員会



委員長 奥出克尚

主な活動

○総会、役員会の設営並びに各種資料の整理と記録作り。
 ○会員名簿の発行。
 ○会報「榊葉」及び対内通信「神青通信」の発行。
 ○広報車を使った広宣活動と映画の活用。

昨年度の反省

我々委員会として、先ず対内通信「神青通信」を昨年七月と十一月に発行致しました。これは、会の活動を会員の皆様により知って戴き、円滑な会運営の一助になればと発行致しましたのですが、一年目ということで、手直しする所も多く、もっと喜んで読んで戴ける身近なものにして行きたいと思

います。又、記録作り広宣活動等積極的な活動に欠け、緩慢な感があつた事は深く反省しています。本年度の抱負

昨年度の反省を踏まえ、積極的な委員会活動を旨として「神青通信」の充実。及び、四十年記念大会の成功、特に記念誌の編集に努力して行きます。又、記録作りは勿論であります。対外的にも宣揚するものを考え、会の円滑な運営と発展の為に委員一同力を合せて役割を果たしたいと思います。

担当副会長―久居市支部長若手のホープ。野辺野神社奉仕山中理委員長―委員長らしくならねばと思う私。花岡神社奉仕奥出克尚副委員長―委員会の参謀格アイデアの人、護国神社奉仕伊藤智。委員―眼鏡の奥に知性が見える二人、二見興玉神社奉仕稲垣年。神宮奉仕土井政敏。唯一花の独身ワープロの星、頭之宮四方神社奉仕奥野浩史。温和な中にもやる気が見える、椿大神社奉仕村田昭彦。

四十年委員会



委員長 岩田健司

昨年の定例総会にて、村田丸より山本丸へと引き継がれた新執行部では、今期の一大事業でもある創立四十周年と言う記念すべき年を迎え、本年の六月三日、津セントアーパレスで開催される「三重県神道青年会創立四十周年記念式典」と銘打つての記念大会の為に山本新会長をはじめとするひな祭り三役（一人の副会長を除けば総て女兒ばかりの父親トリオ）直轄のもと、岩田理事（椿大神社・34歳・2児の父親）を委員長に、波多瀬理事（松阪神社・31歳・結婚間近）直前会長でもある村田監事（頭之宮四方神社・40歳・2児の父親）大西監事（久留真神社・40歳・2児の父親）嵯峨井理事（鎮国守国神社・29歳・花の独身貴族）上嶋会員（頭之宮四方神社・30歳）もうすぐ2児の父親）計六名のスタッフで四十周年実行委員会を組

織し、月毎に委員会を開き具体案作り（11頁参照）に努めて来ました。当委員会は、他の委員会と違って昨年一年間は具体案作りで専念すると言う誠におめでたいメンバーにとつては少々地味すぎる作業ではあつたかのようにありますが、四十年という尊い歴史の重みを一つく／＼ひもとけば、先輩諸兄も当時はもう少し髪の毛が豊かであつたことなどに少しは苦笑しながらもその苦勞が偲ばれます。

渾沌とした社会情勢の中で、祖国日本の再建と神社神道興隆の為に昭和二十四年に当会を発足されてより、時代に即応した活動方針の中で、以来並々ならぬ情熱と御努力により、今日の礎を築かれたことを改めてかみしめ、今を生きる神青会の本末が転倒してはいないか自問自答しつつ、先輩諸兄に心から謝意を表する記念式典と確認し合った次第であります。

また昨年の十一月三日には、神宮の宇治橋の架け替え工事が竣工し、渡始式の盛儀が古式床しく斎行されました。我々神青会員は固より神域に足を運んだ十数万の人々は同じ思いで新橋を渡り、遷宮

教化研修委員会



委員長 増田秀樹

を待つ神前に額づいたことである。来たる六月三日にも、あの時の日本人としての誇りと責任を持って、神青の炎を共に燃やしたいものであります。

教化・研修委員会平成元年度活動方針①中央五県、ブロック、各種研修会参加の要請と研修の実践②大麻頒布の実践③稷錬成の実施④祭式研修会の実施⑤第14回お宮の子供会の実施⑥各神社祭典奉仕の助成等が活動の概要です。

大麻頒布の実践は、一千万家庭神宮大麻斎運動の一環として大麻頒布特別委員会に助成し、事前に広報活動も行い松阪市支部管内団地を対象に実施神青会員二十一名の参加及び支部その他奉仕者総勢九十名の奉仕により執行されました。

今後の方針としては、少数人員

で各戸に地道な活動と努力で高い成果を上げられる方法で実践したいと思ひます。気力ある会員をお待ち申し上げます。

稷錬成研修会の当初予定は寒中楔でしたが参加者日程等の都合で実施期日が遅れ幸いな事に山口県青年神職会との合同稷研修会が椿大神社で実施する事が出来両県共に、親睦と交流を深め意義ある研修会が実施されました。第14回を迎えたお宮の子供会は、北畠神社で開催予定でしたが、当日は台風の接近で開催地は、大雨洪水警報が発令され最悪の事態となり、実行委員慎重審議の結果中止となり、御協力戴きました会員の皆様方にお詫び申し上げます。次回お宮の子供会には一層の御協力お願いします。

当委員会は、各神社祭典奉仕等も執り行つていますが、本年は御大典の年を迎え会員の神社に於ても御大典奉祝事業等計画の事と存じ上げます。就いては、祭典、諸行事等の助成も致しますので御希望の方は奮つて事務局迄お申し込み下さい。

祭式研修会に就いても平成の御大典記念として神社音楽協会が奉

渉外委員会



委員長 前川栄次

祝記念祭祀舞の計画が予定されていますので、来年度は祭祀舞の研修会を実施予定ですので御協力をお願いします。

神道青年会活動に於いて、「渉外委員会」の存在は、会員相互の親睦を計り、かつ、円滑な会活動を推し進めることであります。

まず、「新入会員歓迎会（本年ボーリング大会）」、「家族会（夕食会）」、「県外研修（御陵参拝）」そして「懇親会」等レクレーション的要素の強い中、心のつながりを深め、大きな和をひろげなければなりません。

私も長年青年会役員としてたずさわつてきましたが、渉外活動を担当するのは、今年初めてであり戸惑う事ばかりであります。宮川副会長を始め、佐師副委員長、中森委員、藤林委員、小林委員、池田委員と私、計七名で担当してき

ました。しかし、本年度「平成元年度」の活動に於いては、私事、社務の都合で、「委員会」を開く機会も少なく、円滑な活動が出来たとは、お世辞にも言えなく、山本会長を始め、理事の方々、会員の皆様には、大変御迷惑をおかけしました事に、深くおわびを申し上げます。

平成二年度は、「即位の礼」「大嘗祭等、日本の国にとって重大な年であると共に、青年会に於いても「四十周年」を迎え、一大躍進の年であります。山本会長を中心に役員が一丸となりとりくまねばならないこの時に、渉外委員会としても、記念事業のイベント「奉告祭」「記念式典」の担当により、成功に向け、全力をあげ、推し進めていかなければなりません。これを期に委員会活動のより充実を計るべく、心に鞭打つ所存であります。

会員諸兄の日々緊張の社務奉仕の中に、心のつながりを深める為にも、委員それぞれの持ち味・個性を生かして、全力を尽くす決意であります。今後とも多大なる御協力をお願い致します。

平成元年度 事業報告

去る、平成元年十月二十八日(土) 松阪で家族会が開催された。

今回は、日頃、神青会員も社務多忙の為、あまり家族サービスが出来なかつたであろうという事で、子供や奥さんを中心に楽しんでもらおうとの企画であった。



家族会

が一生懸命で、日頃のその職業からは想像もつかないすさまじさであり、本当に時間を忘れ、楽しいひと時を過ごしたという感じであった。



ビンゴゲームにみんな真剣

当日は、中部台運動公園に集合し、まずは、その中にある「みえこどもの城」で、スペースシアター(プラネタリウム)に入場した。参加者の子供達の年令より高い年令層むけに構成されていて、難しすぎるとの声もあつたが、それでも子供達は、興味深かけに見ていたように思われた。そして、夕食会々場の華王殿に移動し、そこで色々なゲームが行



族会をするよりも、今回のように、比較的近い所で和気あいあいと行った事が、本来の意味での家族会であったという事で、好評のうち無事終了することが出来た。

今回、私も含め数名の独身者も参加していたが、特に私などは、「次回の家族会こそは女房同伴で必ず参加しよう」と堅く心に誓つたのであった。(波多瀬 記)

大嘗祭研修 野球大会

昨年九月十三・十四日に長野県松本市に於いて『東海五県神道青年連絡協議会及び教化研修会』が開催され、三重県からは会長以下十一名が参加した。

第一日目は、国学院大学日本文化研究所助教授大原康男先生をお招きして「大嘗祭」というテーマで、熱弁を奮つて戴いた。

神道人として……

戦後教育で育つた者にとつて、

宮を迎える感想」等が話題となつた。

それから、伏見稲荷大社参集殿に場所を移し、京都府神青会十四名と懇談を行った。



奈良県神青会と(石上神宮参集殿にて)

一日という短い時間内での両神青会との懇談会であったが、共に積極的な意見交換ができ、充分に親睦が深められたのではないかと感じる。そしてまた、遷宮に深い関心を持っていて、遷宮に深い関心もでき、大きな成果があったと感じた。(土井 記)

会務日誌

◎平成元年

四月六日

昭和六十三年度定例総会

会員二十七名出席

於・神宮司庁

卒業式

会員二十七名出席

於・賢島ビューホテル

二十五日

神青協第四十一回定例総会

会長以下四名出席

於・神社本庁

二十七日 第一回役員会

五月二十三日 第二回役員会

六月十二日

第三回役員会

新入会員歓迎会

会員他三十九名参加

於・津グランドボウル

三重県神社庁

七月一日

平成元年度会員名簿発行

十二月

第四回役員会 於北畠神社

十五日

「神青通信」発行

八月二日、四日

第十四回お宮の子供会

(雨天のため中止)

二十九日 第五回役員会

九月十三日、十四日

東海五県神青協教化研修会

会長以下十一名参加

於・松本市サンピア松本

二十六日 第六回役員会

十月十八日 第七回役員会

二十八日

家族会

会員・家族四十二名出席

於・みえこどもの城

松阪・華王殿

十一月三日

宇治橋渡始式奉仕

会長以下二十名奉仕

十日

「神青通信」発行

二十五日

一千万家庭神宮大麻奉斎運動

会長以下二十一名奉仕

於・松阪市内

二十七日 第八回役員会

十二月三日

一千万家庭神宮大麻奉斎運動

於・桑名市大山田団地

◎平成二年

一月二十九日

第九回役員会於・猿田彦神社



ユニフォーム姿でさっそうと……

「大嘗祭」の意義を本当に理解している人は一体どれだけ存在するだろうか。大嘗祭という言葉自体知らない人が多くいるのが現状ではないかと思う。20代・30代のこれからの日本を背負って立つ青年に、最たる伝統「大嘗祭」を理解せしめるには、並み大抵の事ではないという、強いジレンマを感じつつ、神道人として、これから何を行い、何を教化目的として行かなければならないのかを再確認した。

研修会の後、五県連絡協議会が各県代表によって開催され、午後六時から懇親会場へと移った。

激戦の末……

第二日目、恒例の親睦野球大会

では、降りしきる雨の中、そここそ泥まみれになりながら頑張つたが、一回戦相手チーム岐阜県に2対3の僅差で敗れた。

次回(今年)は三重県での開催となり、同時に研修課題でもあつた「大嘗祭」が斎行される年である。三重県として恥ずかしくない様、成功・必勝を目ざなければならぬ。(上嶋 記)

神宮神青会懇談会

奈良・京都神青と

昨年九月十九日、荒天のなかであつたが、神宮神青・横地会長、県神青・宮川副会長以下十一名の参加により、奈良県・京都府の神青会との懇談会が行われた。

まず、奈良県神青会員十六名との懇談会を石上神宮参集殿で行つた。

次第としては、両会長の挨拶をはじめ、各人の自己紹介、そしてビデオ「遷宮ニュース」を上映したり、両会の活動報告、懇談と続いた。

尚、懇談では「奈良の大麻頒布率の低さと伊勢講との関係」「遷

宇治橋渡始式奉仕

平成元年十一月三日、雲一つない秋晴、絶好の祭日和。午前十時より饗土橋姫神社の御加護で竣工報告と、橋の御守護を祈願する祭典が執り行われ、万度大麻が御正殿向かって左側二本目の柱の擬宝珠の中に納められた。そして真新しい宇治橋六百枚の桧の渡板の上を、古例に習い旧神宮領内から選ばれた「渡女」を始めその夫・子・孫の各夫婦、そして造営庁の技師・技師・大宮司以下神職、続いて各都道府県代表の健康な三代夫婦が渡っていった。我が神道青年会も、山本会長以下十九名が白衣白袴にてご奉仕申し上げ、無事渡始式が終了した。

渡り始め

爽やかな 秋の風吹く 橋の上
渡り始めにし 今日吉日に
(嵯峨井 記)



二月六日、御神火は高千穂より神武東征の道を進んで西日本を縦断し、奈良県を経て、名張市は積田神社に遷降中、到着した。林副庁長・中森宮司をはじめ支部関係者、会長以下神青会員、その他総計百名程が出迎え、御神火を引き継いだ。天候等の不順により遅れが出たため、速やかに出発、青山高原から久居を経て、神宮へ向かう。凍結路、渋滞等により一時間程遅れたが、神宮関係者、参拝者の出迎える宇治橋前に到着した。御神火は参拝後、饗膳所に奉戴され、神青会員六名が二交替によ

御神火行進奉仕



二月六〜七日

御神火行進助勢

会長以下十二名奉仕

於名張く神宮く熱田神宮

十九日 第十回役員会

二十一〜二日

神青協中央研修会

会員六名出席

於・金沢東急ホテル

二十二日

山口県青年神職会との

合同禊研修会

会長以下十六名参加

於・椿大神社・椿会館

三月十日

氏子青年会との合同研修

会 会長以下十名参加

於・三重県神社庁

十五日

三重県護国神社合祀祭奉仕

会員十名奉仕

十九日 第十一回役員会

二十二〜三日

研修旅行

於・東京・武蔵野陵

三月三十一日

『榊葉』十六号発刊

四月二日

平成元年度定例総会

る徹夜伴奉仕を行った。一同は火を絶やさぬよう気を配り、緊張の中夜明けを迎えた。



徹夜の警護をした有志達

神道青年会全国協議会中央研修会

平成二年三月二十一〜二日の両日にわたり平成元年度神青協中央研修会が北陸の地、金沢市は香林坊の東急ホテルにおいて行われた。今回の主題は『海と日本文化』

—海の幸と日本文化—ということ、基調講演には、近茶流宗家柳原敏夫先生・神宮祢宜矢野憲一先生をお迎えし、それぞれ『海洋の恩恵と食の文化』・『日本人と魚』という演題の講演を拝聴した。

日頃米の文化を第一と考える神社人が海の恩恵というものを改めて考え直した研修会であった。

三重県より、山中副会長・村田監事・伊藤理事・嵯峨井理事・河合・岡本会員の六名が出席した。

(伊藤 記)



翌朝五時頃、キャラバン隊のメンバーによる朝拝に参列すると、国歌斉唱・御製等気合いの入ったもので、一同圧倒され、使命の重さを再確認した。隊列を整え、受け渡し地点である熱田神宮へ向かい、愛知県境で受け渡しをし、熱田の森に進み、関係者四百名の出迎えを受け無事奉仕を終了した。

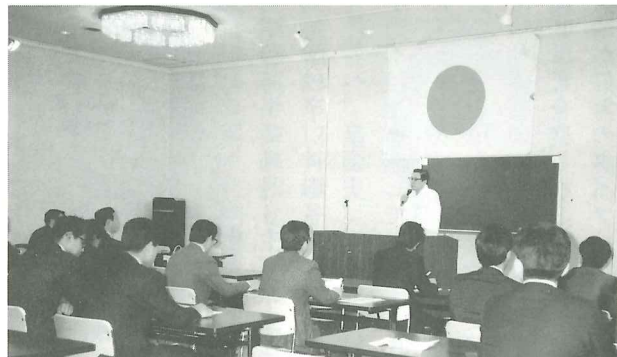
(種村 記)

榊 研修会

三重県神道青年会
山口県青年神職会

合同

平成二年二月二十二日、午後五時より三重県神道青年会十六名と山口県青年神職会十三名による合同研修会が椿大神社に於いて行われた。正式参拝を終え、続いて椿会館に於いて山本行隆宮司の講演があった。講演後、榊抜場に移動し、全員、禪、鉢巻姿になり三重県山本会長の道彦で榊研修会が行われた。鳥船、雄健、雄詰、気吹行事を終え、愈々身滌行事、各々



講師に山本行隆宮司を迎えて



冷い滝に打たれて

「エイイッ」という気合と共に滝に打たれ、「抜戸大神」と連唱。当日は割合暖かい日だったが、水は冷たく、中に入ると、冷たさでチクチクと身体が刺される様な感じがした。しかし、その冷たさも気合と熱気で吹きとび、水から上がると身体から湯気が立ちのぼっていた。榊研修を終え、会館に於いて懇親会があり、辰副会長の司会で進行され、山本会長、山口県真庭会長の挨拶と続き、山口県有島前会長が乾杯をした。各々自己紹介を兼ねて活動報告をし、互いに酒を酌み交わしながら和やかな宴になった。最後に、増田教化研修委員長の音頭による万歳で、研修会も無事に終了し、翌朝自由解散となった。

(中野 記)



四十周年に望みて

出 発 の 日

三重県神道青年会の組織が確立し、昭和二十四年八月七日に産声を上げてより諸先輩がたのご努力を受け継ぎ、昨年(平成元年)創立四十周年を迎えました。本会では

昨年の六月に記念式典を行なうべく諸準備を進めておりましたが、

一、昨年の先帝陛下のご闘病、そして昨年一月のご崩御に伴い、四十周年関連事業全てを延期させていただきます次第です。御諒閣があげ、新

帝陛下ご即位の大嘗祭を迎える慶賀の本年、記念式典及び関連事業を行なわせて戴く運びとなりました。

平成元年度より、四十周年実行委員会を設置し、岩田理事がその委員長を務め、実行委員会のもと、「奉告祭・記念式典部会」「記念講演部会」「記念誌部会」「事務局・推進室」の四部会を設け、総予算三五〇万円で計画を進めています。

奉告祭

一、期日 平成二年六月三日
一、場所 津センターパレス

一、時刻 午後一時三十分より
記念式典

一、期日 平成二年六月三日
一、場所 津センターパレス
一、時刻 午後二時五十分より
記念講演会

一、期日 平成二年六月三日
一、場所 津センターパレス
一、時刻 午後三時より
一、講師 黛 敏郎先生
祝賀会

一、期日 平成二年六月三日
一、場所 津センターパレス
一、時刻 午後五時より
のように計画しています。

記念誌は四十周年関連事業全てを記載できるよう時期をずらして発刊する予定です。(年内には発刊)

以上がメインとなる記念行事の予定ですが、実行委員会を中心として会員が丸となり、素晴らしき事業を展開していきたいと頑張っています。

神社界にとって、時代の変化をキャッチし時代を切開く尖兵は溢

れる情熱を持った青年神職であり、「神道青年会」の存在意義そのものなのです。我々は諸先輩方が築いて来られた歴史の重みを自覚した上で、行動力を持って変革と革新にチャレンジすることができ柔らかな土台を持つ「会」にして行きたいと考えています。すなわち四十周年は積み重ねて来られた歴史の単なる区切りだけでは無くして、未来へ向けての活動指針を確立し、更なる飛躍を期する重要な節目の時期となります。

日本は今や戦後の総決算が済まされ、確実に変革の時代の波の中を進んでいます。世界的にも東欧の自由化を中心として維新の波が大きく動いています。「日本が日本であるために……」、我々の使命は否応無しに増大して行きます。すなわち神道青年は時代の変化を予見し、変革の能動者となつて「惟神の大道」を推し広めてゆかねばなりません。

我々は、未来永劫への思いを込めて四十周年事業を造り上げようと頑張っています。六月三日には多数の来賓をお迎え致します。会員全員参加のもと盛大な「出発の日」にしようではありませんか!

表紙説明

蘭陵王について

支那六朝時代の北斉国王蘭陵王長恭は、周の大軍と戦って大勝を博し、勇名を天下に轟かせた。その軍を叱咤する勇壮な様を模して作ったと伝えられる。

舞人は、竜頭を頂頭に頂いた面を被り緋房のついた金色の桴を持つ。舞振りには、勇壮活発なリズム感に溢れ、しかも莊重さを失わず、特に曲の後半は太鼓の拍子も活気のある打ち方となり、振りも益々巧妙となる。

(写真は神宮広報紙より転載)

会報「榊 葉」

第16号

平成2年3月31日発行

発行者 山本行恭

編集 総務広報委員会

発行所 津市鳥居町210-2

三重県神社庁内

三重県神道青年会